



<校訓> 誠・和・進 <学校教育目標> 自立 共生

<目指す学校像> 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

一人ひとりが大切にされていることが実感でき家に帰った時に元気よくたどり着きたい学校でありたい
 飯能西中学校スクールアイデンティティー

目先の知識ではなく教養を身につけること

校長 中村 公一

2学期が始まったものの依然として厳しい暑さの毎日が続いています。それでも雲の合間から見える青空が時折高く感じられることもあり、次第に秋が近づいてきているように思います。今月は部活動の新人戦があるほか、来月の初めには体育祭が予定されているため、各クラスでは選手決めをはじめとして大縄跳びなど団体競技の準備が始まっています。厳しい残暑が続く中なので無理をして体調を崩さないよう、給水や休憩などを適切に取るよう気をつけて行きたいと思います。

さて、学校だより7月号でもお話をさせていただきましたが、今、日本の学校での教育の在り方は大きく変わってきています。コロナ禍により日本は学校においてリモート授業が出来ない教育ICT後進国であるという現実と直面しました。それ以来、生徒一人一人がタブレットやPCを利用できるよう急ピッチで導入が進められてきたのは皆さんもご存じの通りですが、学校教育においてリモート授業以外でICTをどのように活用したら効果的なのかということについてはまだ手探りの状態が続いています。しかしこの間も世界における教育の情勢は動いており、子ども達に未来を生き抜く力を育てるためには、ICTも活用して生徒自らが学びに向かうようにする必要があります。このようなことから、本校でもタブレットさえあれば生徒がいつでもどこでも学びに向かうことが出来るようICT教材の「Study Planets」と「スマイルネクスト」を導入することにしました。

ところで、皆さんは「知識の消費者」という言葉を聞いたことはあるでしょうか。スマホやPCから誰もが生成AIを使える便利な世の中になり、もはやキーワード使った検索さえする必要がありません。どのようなことを知りたいのか文章で入力すれば、それに関する知識を整理してまとめた結果を返してくれるからです。このようにして知識を利用するだけの人のことを「知識の消費者」と言うのですが、これからの社会で必要とされるのは、みんなに必要とされる新しい知識を生み出す人です。実際に生成AIを利用してみればわかるのですが、「〇〇について新しいアイデアを教えて」と入力すると、「△△が新しいアイデアと言われています」というように、ネット上のデータを元にした答えが返ってくるので、AIは新しい知識を生み出しているというの無意味ということがわかります。このことから新しい知識を生み出す人、すなわち「知識の生産者」が必ず必要になるということが理解できるのではないのでしょうか。

では、知識の生産者となるためにはどのようなことをすればいいのでしょうか。これをAIを使って調べてみたところ、高学歴であったり専門的な知識を持っているということよりも、幅広い知識を持っていて批判的な思考も交えながら冷静に評価・分析できることや、自ら情報発信し交流できるコミュニケーション能力があることの方が大切なようです。見方を変えれば、知識がある人というよりも右に示したような教養がある人といえるのではないのでしょうか。

知識の消費者から知識の生産者へ

- 知識の消費者（利用するだけの人）
- ・ 情報を受け取り自分から学ばない
 - ・ 情報をそのまま受け入れ分析・評価をしない
- 知識の生産者（新しい知識を生み出す人）
- ・ 新しい知識や情報を生み出し発信する
 - ・ 新しいアイデアで知識をさらに発展させる

教養がある人は

- ・ 知識の幅が広く基本的な知識を持っている
- ・ 批判的な思考も含め分析・評価し自分の考えが持てる
- ・ 社会的な責任や倫理観や価値観を持ち実践できる
- ・ 他者と意思疎通するコミュニケーション能力がある
- ・ 異なる文化や価値観を理解し尊重した行動を取れる

2学期の始業式から

始業式の最初に、本校のめざす生徒像、めざす学校像、めざす教職員像、三つの心構えと二つの習慣、そして、私たちの権利を大切にすることを心構えとして「つらいの」「たすけてほしいの」という言葉は皆さんの権利として使っていい言葉、そして「やめようよ」「かわいそうだよ」というのは、目の前の人の権利を守る言葉であることをお話ししました。これらの言葉は生徒の皆さんだけでなく、私たち大人を含めた一人一人の権利を守る上で大切な言葉ですから、必要なときには勇気を出して使ってほしいと思います。

続いて、この2学期の間に生徒の皆さんにどのような力を伸ばしてほしいかという話をしました。昨年にも同じようなお話をしたのですが、私たちが自分自身に対して抱く感覚には、右に示したような自己有用感、自己効力感、そして自己肯定感があります。これらは密接に関係しているのですが、特に今の自分のことを自分自身で認めることができる自己肯定感はとても大切です。これが低いと、自分のことを認めてもらいたいあまり、過度に自分のことを主張しすぎてしまったり、言葉が強くなって態度が荒くなってしまうことがあります。また、やる気が起きなかったり、かえって投げやりな態度になってしまうようなこともあることから、この自己肯定感を高めることは生徒の皆さんにとっても大変重要なことです。

ではどのようにしたら自己肯定感が高まっていくのでしょうか。それには、上にも書いた自己有用感や自己効力感を高めていく必要があります。「自分は役に立っている」とか「自分にもできる」という経験を積んでいくことで、これらの気持ちが高まっていくのです。ですから何もせずただ待っているだけでは何も変わりません。まずは自分から話しかけてみたり、自分から働きかけてみたりすることです。他の人や社会と関わり、うまくいったという成功体験や、失敗をしてもそれを乗り越えた経験を重ねていくことで、ありのままの自分を認められるようになってほしいと思います。

お知らせ

これまで不在であったさわやか相談員について、先月末新たに配置されました。また、AETにつきましても今学期当初で交代となりました。詳細については8月28日付けでお手紙を配布済みですのでそちらをご覧ください。

めざす生徒像 未来を生き抜く力を備えた生徒

めざす学校像 心のよりどころとなる世界に誇れる学校

めざす教職員像 使命感と愛情にあふれる教師

スクールアイデンティティ 一人一人が大切にされていることが実感でき、家に帰ったときに 元氣よく「ただいま」といえる学校でありたい

3つの心構え

- ・自分から考えて行動する
- ・みんなで知恵を出し合う
- ・頭と心で常に深く考える

2つの習慣

- ・出会ったらまず挨拶
- ・掃除は心磨き

つらいの たすけてほしいの
権利を使う言葉

やめようよ かわいそうだよ
権利を守る言葉

自己有用感 自分は必要とされている
自分は役に立っている

自己効力感 自分にもできる
自分には力がある

自己肯定感 ありのままの自分でいい

自己肯定感がないと

なかなか認めてもらえない分
自分の正しさを過度に主張したくなる
態度や言葉遣いが悪くなったり
投げやりになったりしがち

体育祭や合唱祭でしか得られないことがあります

生徒の皆さんへ

2学期には体育祭や合唱祭などクラスでの取り組み方が試される行事がありますね。運動や歌が得意な人がいる一方で苦手な人がいるのは当然のことですし、集団での競技や合唱が好きの人がいれば嫌いな人もいますので、クラスでまとまるのはたいへんなことです。人間以外の動物は仲間を思いやる、仲間と力を合わせる、仲間のために自分の力をいかすとか仲間のために自分を律するなどということはほとんどできません。ましてや一つの目標に向かって頑張ったことをお互いにたたえ合うというようなことは人間にしかできないことなのです。たかが学校行事とはいえ体育祭や合唱祭で頑張るということは人間しかない能力を十分に発揮するということと同じです。そこで身につけた力はやがて皆さんが社会に出たときに役立つのは間違いありません。